

どの子にも分かる授業づくり～ユニバーサルデザインの視点をもって～
〈三小スタンダード 生活編〉

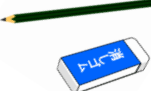
○全項目低学年を基本にして積み重なっていきます。

○学習に集中できない物は持ってきません。

○全ての持ち物に、学年・クラス・名前を必ず明記します。(自分の物を大切にします。)

項目		イメージ	低学年（基本形） ・ 具体例	中学年	高学年
学習用具の準備と使い方	ロッカー・フック		●ランドセルは止めを奥にして入れる。 ●帽子、ジャンパー類はたたんでランドセルの中に入れる。 ●体育着は廊下のフックにかける。 ●上履き入れ・音楽バッグ・図工バッグの置き場所は学年で決める。	●習字道具は必要ときに持ってきて、使用後持ち帰り、筆を洗い、練習用半紙を捨てる。	
	靴箱		●上の段・・・上履き(つま先・かかとに記名) ●下の段・・・外履き(かかとを手前に揃える)		
	机の中		●左側の箱(お泊まりの箱) ・学校に置いていく物：色鉛筆(12色)・クレパス・のり(液体のりやスティックのり)・はさみ、セロハンテープ等 ●右側の箱(持ち帰りの箱) ・毎日家から持ってきて帰る物：教科書・ノート・筆箱等	●左側の箱：コンパス・分度器・三角定規などを整頓して入れる。 ※学年に応じて、学校に置いておく教科書もあり。	
	机の上		●授業の始めに、教科書・ノート・筆箱・下敷きを重ねて置く。 ●授業が終わったら、机の上を整頓する。		
	筆記用具		●箱形筆箱(無地推奨、缶不可)・鉛筆5本(無地推奨、2B 推奨)・赤鉛筆・黒の油性ペン・白いプラスチック消しゴム・定規(柄物、折り畳み不可)、無地の下敷き。 ・鉛筆は家で毎日削る。	●シャープペンシルは不可。	
学校生活で	教室移動		●2列に並んで行く。 ●静かに右側を歩く。・自分の教室に戻る時も同様。 ●専科の授業には担任の先生と行く。		
	挨拶		●進んで気持ちのよい挨拶をする。 ●呼ばれたら、声を出して返事をする。	●相手に応じた言葉遣いをする。 ●来校者や先生方に会釈をする。	
	全校集会		●5分前行動で集合して、きちんと整列して静かに待つ。 ●話す人に合わせて礼をする。 ●頭を動かさず、休めの姿勢で話を聞く。	●最後まで集中して話を聞く。	
	時間を守る		●登下校の時間を守る。 ・登校時間：8時15分～8時25分 ・最終下校時間：3時20分(下校時間は学年により異なる) ●授業や休み時間等の時刻を守る。 ●校庭開放は、一旦家に帰ってから来る。		

どの子にも分かる授業づくり～ユニバーサルデザインの視点をもって～
 〈三小スタンダード 学習編〉

項目		イメージ	低学年（基本形） ・ 具体例	中学年	高学年
授業前	準備		●チャイム着席で待つ。 ●ノートの上に教科書、筆箱をのせて準備して待つ。		
	開始		●授業開始・授業終了後： ①姿勢を正す。 ②先生に注目して適切な挨拶をする。		
授業中	座り方		●背筋はピン！ ・ 足の裏は床にピタ！ ●おなかと机の間はグーをひとつ分あける。 ●上履きをきちんと履いて座る。 ●手はひざの上にそろえて置く。 ●両足は机の中に入れて、床に付ける。		
	ノートの使い方		●決められたノートを使う。 ●日付を書く。 ●正しい鉛筆の持ち方で書く。 ●下敷きを敷いて書く。 ●定規を使って線を引く。	●教科に応じて学習のめあて等を書く。 ●字の大きさや書く場所を考えて丁寧に書く。 ●大事なキーワードがあれば自分で書き足す。	●板書以外でも、自分の考えたことや、先生の話などを書く。
	発言の仕方・話し方	 	 ●名前を呼ばれたら返事をして発言する。 ●聞こえる声ではっきりと話す。 ●「～です。」と丁寧な言葉遣いで話す。 ●声のものさしを使って話す。	 ●友達の考えと比べながら話す。	 ●目的や意図に応じて、話の組み立てを工夫して話す。
	話の聞き方	 	 ●先生や友達が話しているときは、話す人を見て静かに聞く。	 ●同じ・賛成・違う・反対など自分の意見と比べながら聞く。 ●うなずく等反応しながら聞く。	 ●相手の意見を尊重しつつ、自分の意見と比較しながら聞く。
家庭で	学習用具準備	忘れ物がないように前日に準備する。	●家の人に手紙を渡し、連絡帳を見せる。(留守の時は決められた場所に置く) ●時間割を見て準備し、家の人に点検してもらう。 ●宿題はすぐにランドセルに入れる。		
	家庭学習	目安時間 10分以上×学年	●毎日、きちんと家庭学習に取り組み、家の人に見てもらう。 ・文字・漢字 ・音読 ・算数	●言われなくても家庭学習に取り組む。 ・宿題、復習 ・音読 ・漢字練習、計算練習	●自分で計画を立てて、宿題や自主学習に取り組む。 ・宿題、復習 ・調べ学習

どの子にも分かる授業づくり～ユニバーサルデザインの視点をもって～
 〈三小スタンダード 授業編〉

どの子も伸びて、学び合える授業づくりのための工夫

ポイント	ポイントの内容	ポイントの具体例・配慮点等	
①見通し	○一日の流れを示す。	・一日の始めに予定を伝える。	
	○一時間の流れを示す。	・授業の始めに学習の順番を伝える。 ・その時間の終着点を伝える。	
	○一つの作業・学習が 15 分で終わるような内容の組み立てを行う。	・一つの作業が完了する基準をはっきり伝える。 ・タイマー等を使い、活動時間を意識させる。	
②明確化	○ねらいを明確にする。	・一時間のめあてをはっきりと示す。 ・授業の始めにねらいを提示する。	
	○発問・指示・説明を明確かつ簡潔にする。	・主発問は厳選する。 ・短く端的な言葉で指示する。 (「3つ話します」等)	
	○一文一動詞で話す。	・必要以上に言い直しをしない。	
③視覚化	○視覚的に分かる工夫をする。	・色チョークの使い方を工夫する。 (重要事項、ライン、囲み：黄色) ・カードや短冊を効果的に使う。 ・書画カメラや ICT 機器を使い、イメージしやすくする。	
	○一時間の学習内容が見てわかるような板書をする。	・板書計画をしっかりと行い、授業の流れが分かる板書をする。 ・授業の途中でなるべく消さないようにする。 ・効果的な図や絵、資料を提示する。	
④体験的活動	○操作活動や感覚的な活動等を取り入れる。	・具体物を使って学習する。 (算数：タイル等を使い計算する。社会：立体地図を使い土地の高低を確かめる等) ・手・指あそび等で器用さを向上する。	
⑤学び合い	○ペアタイム（2人）	・自分の考えを確認させる。 ・自分の考えに自信をもたせる。	○教え合い、学び合いを通して、考えを広げ深める。 ○ペア・グループ、クラスを目的や状況に応じて使い分ける。
	○グループタイム（3～6人）	・全員発言し、参加させる。 ・役割を決めて話し合わせる。	
	○クラスタイム（学級全体） ※マイタイム(個々が集中して自分の考えを深める時間)を取る。	・多様な考えに触れさせる。 ・クラス全体で学習活動に取り組みさせる。(話し合い、作品作り、ディベート等)	
⑥学習の流れの構造化	○同一教科の流れを一定にする。	・流れを一定にすることで見通しをもたせる。 (体育：準備運動⇒単元活動 社会：課題をつかむ⇒考える⇒調べる⇒話し合う⇒まとめる 等)	
⑦振り返り	○一時間や単元を振り返る	・めあてに対してどこまで達成できたか振り返らせたり、感想を書かせたりする。	

どの子も落ち着いて授業に集中できるようにするための工夫

☆環境の変化が少なく、授業に集中しやすい環境にする

①前面の掲示



- 黒板や黒板の上をすっきりさせる。
- 掲示板の掲示物は、常時使う物のみにし、他の掲示物は側面や後ろの掲示板を活用する。

②クラスで共同で使う物



(副読本、学級文庫)



(鉛筆削り、セロハンテープ)

- 共同で使う物の置き場所を明示する。

③ロッカー



- ランドセルは、止めを奥にしてロッカーに置く。
- ジャンパー類はたたんでランドセルに入れる。

④ろうかフック



- 廊下のフックは、横一列に広げ、一人一人が使いやすいように各自のスペースを確保する。

⑤机



- 机の横のフックには、必要最低限の物をぶら下げ、通行の妨げにならないようにする。



- 授業中は、必要な物だけを机の上に出す。